

添付資料

地域内フィーダー系統確保維持事業に
関する取組・評価概要

令和4年1月

南 城 市

事業名：地域名フィーダー系統確保維持事業

協議会：南城市地域公共交通会議

評価対象期間 令和2年度：令和元年10月1日～令和2年9月30日

令和3年度：令和2年10月1日～令和3年9月30日

1 地域の概要

南城市は、平成18年1月1日に1町3村（佐敷町・知念村・玉城村・大里村）の合併により誕生し、令和2年1月に合併15年目を迎えた。沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南東へ12kmに位置し、静穏な中城湾と太平洋に面している。東西18km、南北8kmの広がりを持ち、面積は49.94km²、西側を除く三方が海岸線に接してはいるが、平坦地が少なく傾斜の多い地形となっている。

人口は45,045人（令和3年3月末）であり、平成20年以降増加傾向で推移している。

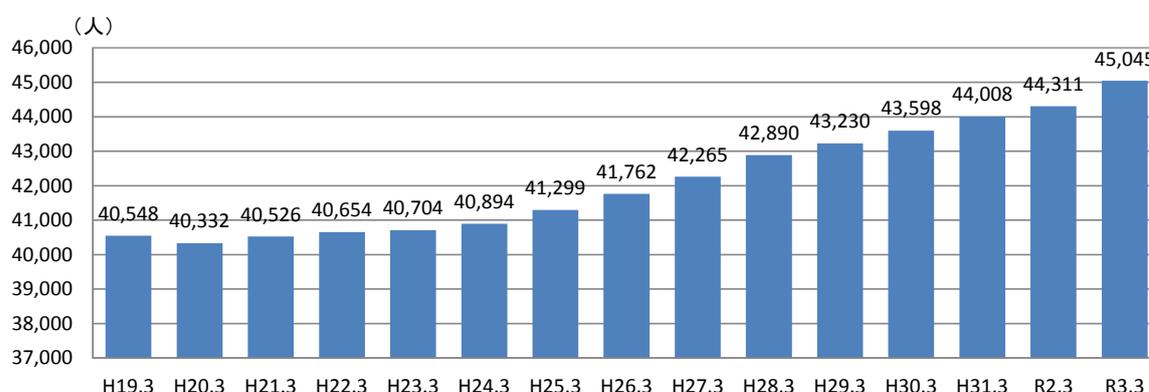


図-1. 南城市の人口推移

2 事業の背景、必要性

本市では、合併以降の人の流れに応じた路線バス網の見直しが行われなかったこともあり、公共交通の空白地域既存の路線バスで対応できないエリア、時間帯の移動を補完するため、平成25年度からドア to ドアのデマンドバス「おでかけなんじい」の実証運行を行い、平成28年度から本格運行に至っている。平成27年度の有償化以降、利用者数は順調に増加してきたが、コロナ禍前には飽和状態に達したこともあり、令和元年10月1日の公共交通の再編を実施し、市内の移動を担う公共交通としてNバス（市内バス）を導入、「おでかけなんじい」は、Nバスを補完する交通弱者の市内移動を支えるための公共交通という位置づけの見直しを行った。再編後、「おでかけなんじい」の利用者数は減少したものの、新たに運行を開始したNバスとあわせた市内の公共交通利用者数は、再編前の約250人/日から、再編後は約350人/日に増加しており、高齢者をはじめとするバス停までのアクセスに不便を感じている方の貴重な移動手段として「おでかけなんじい」は機能しており、継続的な運行が求められている。

3 地域公共交通会議の概要

3.1 委員の構成

南城市地域公共交通会議は、下記の委員で構成されている。委員長は副市長が務めている。

表 1.南城市地域公共交通会議の委員

区分	所属	役職等
副市長	南城市	副市長
学識者	琉球大学工学部	准教授
沖縄総合事務局運輸部長が指名する部署の長	運輸部企画室	室長
	運輸部陸上交通課	課長
沖縄県の公共交通を担当する部署の長	沖縄県企画部交通政策課	課長
道路管理者又はその指名する者	南部国道事務所	副所長
	南部土木事務所	技術総括
地元警察署において交通規制を担当する部署の長又はその指名する者	与那原警察署交通課	課長
一般旅客自動車運送事業者の組織する団体代表又はその指名する者	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事
	一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体代表者又はその指名する者	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行委員長
一般乗合自動車運送事業者の代表者又はその指名する者	沖縄バス株式会社 運輸部	課長
	株式会社琉球バス交通 業務部業務課	主任
	東陽バス株式会社	常務取締役
市民又は利用者を代表する者	南城市老人クラブ連合会	会長
	南城市民生委員児童委員連絡協議会	副会長
	南城市区長会	会長
その他	南城市商工会	副会長
	南城市観光協会	副会長

3.2 地域公共交通会議の開催状況

令和元年度、令和2年度において、地域公共交通会議は以下の概要で開催された。

表 2.令和元年度、令和2年度における南城市地域公共交通会議の開催状況

年度	回数	開催日	主な議題
令和元年度	第1回	令和元年6月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」の運行・利用状況について ●南城市地域公共交通再編実施計画について ●市内線バスの料金(案)について ●「おでかけなんじい」運行計画(案)について
	第2回	令和2年3月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ●Nバス及び「おでかけなんじい」の運行・利用状況について ●1日乗車券について ●無料期間の設定について ●南城市地域公共交通再編実施計画の一部変更について
令和2年度	第1回	令和2年6月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ●南城市地域公共交通再編実施計画の変更について ●Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況について ●令和2年度の取組(案)について ●「おでかけなんじい」運行計画(案)について ●南城市生活交通確保維持改善計画(案)について
	第2回	令和3年3月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年度の取組の実施状況について ●Nバス及び「おでかけなんじい」の利用状況について ●南城市地域公共交通網形成計画の中間評価について

3.3 地域ニーズの把握、反映状況

地域のニーズ把握や、計画等に反映するため、下記の調査を実施している。

- ・令和2年11月 観光客アンケートを実施。観光客の市内における移動ニーズや、公共交通の利用状況、公共交通に対する要望等を把握、今年度実施予定のNバスの見直しに活用。
- ・令和2年11月 市民アンケートを実施。「おでかけなんじい」やNバス等の利用状況や、評価、要望等を把握、今年度実施予定のNバスの見直しに活用。
- ・令和3年9月 小中高生アンケートを実施。再編後の通学実態や、公共交通の評価、問題点の把握を目的に実施。Nバスの見直しに活用。

4 事業の概要

令和元年10月～令和3年9月の運行形態は下表に示す通りである。

表 3.「おでかけなんじい」の運行形態(R1.10～R3.9)

項目	内容	
名称	おでかけなんじい	
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域	
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民（年齢制限なし）	
利用料金	一人一律、1回500円（未就学児は無料）	
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行（フルデマンド）	
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3は除く	
運行時間帯	令和元年10月～令和2年9月	令和2年10月～令和3年9月
	<ul style="list-style-type: none"> ●8～20時（8時台～19時台の1時間ごとに運行） ●平日9時台～18時台、土曜日の11～15時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行 	<ul style="list-style-type: none"> ●8～20時（8時台～19時台の1時間ごとに運行） ●平日9時台～18時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行
運行車両台数	最大3台（5人乗り車両）	
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の30分前までに電話にて予約。ただし、8時台は前日までの予約が必要。	

表-4.曜日別時間帯別の「おでかけなんじい」の運行便数

曜日	年度	時間帯												計
		8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
平日	R2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	34
	R3	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	34
土曜日	R2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	30
	R3	//	//	//	2	2	2	2	2	2	//	//	//	24
日祝日	R2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	R3	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	//	24

表-5.収支の推移

項目	内容	令和2年度 (R1.10～R2.9)	令和3年度 (R2.10～R3.9)
収入	運賃収入	4,866千円	4,449千円
支出	人件費・燃料費等	26,030千円	23,498千円
損益		▲21,164千円	▲19,049千円

※収入、支出は実績（鏡原第一交通提供資料）

5 事業の定量的な目標・効果

「南城市生活交通確保維持改善計画」では、以下に示す定量的な事業の目標を掲げている。

令和2年度の目標・効果

表-6.生活交通確保維持改善計画における令和2年度の目標

項目	現況値 (2019、 R1)	目標値			把握方法	備考
		2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)		
登録者数	5,340人	5,640人	5,940人	6,240人	システム データ	網形成計画の目標、年間 480人から、利用者数 30%減の予測を踏まえ、 年間300人増加に見直し
利用者数	82.8 人/日	58.0 人/日	58.0 人/日	58.0 人/日	〃	再編後の年間利用者数の 予測を踏まえ、30%減の 現状維持で見直し
1便当たりの 利用者数	2.7 人/便	1.9 人/便	1.9 人/便	1.9 人/便	〃	上に同じ
市民(成人) 一人当たり に換算した 負担額	44 円/月	40 円/月	40 円/月	40 円/月	交通事業 者の収入 と支出の 実績	収入と運行経費の予測を もとに見直し

令和3年度の目標・効果

デマンド登録者数がデマンド利用の実態を反映してないことから、令和3年度より「登録者数」を目標値から除外している。

表-7.生活交通確保維持改善計画における令和3年度の目標

項目	現況値 (2020、 R2)	目標値			把握方法	備考
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)		
利用者数	63.0 人/日	63.0 人/日	63.0 人/日	63.0 人/日	システム データ	現状維持
1便当たりの 利用者数	2.2 人/便	2.2 人/便	2.2 人/便	2.2 人/便	〃	現状維持
市民(成人) 一人当たり に換算した 負担額	46 円/月	46 円/月	46 円/月	46 円/月	交通事業 者の収入 と支出の 実績	収入と運行経費の予測を もとに見直し

6 運行実績

6.1 概況

「おでかけなんじい」の運行便数及び利用者数は下表の通りである。

平成 29 年度から令和元年度までは概ね横ばいで推移してきたが、新型コロナウイルス感染症の延
享により、令和 2 年度、令和 3 年度の運行便数、利用者数は大幅に減少しており、利用者数は平成
29 年度の約 31,000 人から令和 3 年度は約 18,000 人に減少している。

表-8.「おでかけなんじい」の運行実績の概況

年度	運行便数	利用者数
平成 29 年度 (H28.10~H29.9)	11,126 便	30,949 人
平成 30 年度 (H29.10~H30.9)	10,983 便	29,929 人
令和元年度 (H30.10~R1.9)	11,003 便	28,794 人
令和 2 年度 (R1.10~R2.9)	9,570 便	18,826 人
令和 3 年度 (R2.10~R3.9)	9,197 便	17,674 人

6.2 日当たりの運行便数

「おでかけなんじい」の運行便数は、新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向にあり、コロナ禍前の令和元年末の28～29便/日から、令和3年度は23～27便/日に減少している。

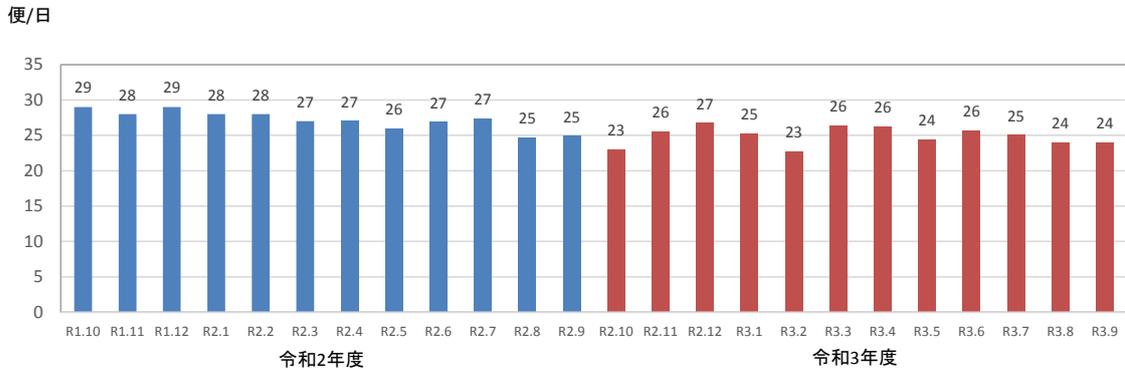


図-2. 「おでかけなんじい」の日別運行状況の推移

6.3 日当たりの利用者数

「おでかけなんじい」の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向にあり、コロナ禍前の令和元年末の60人/日から、令和3年度は45～50人/日に減少している。

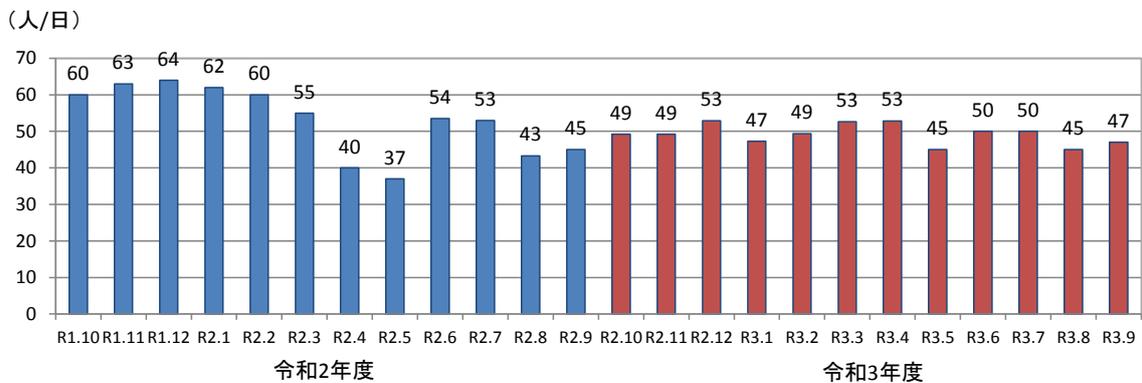


図-3. 「おでかけなんじい」の日別利用者数の推移

7 事業実施の適切性

令和2年度、令和3年度ともに運行計画にもとづき、事業は適切に実施された。

8 目標・効果達成状況

令和2年度及び令和3年度に作成した生活交通確保維持改善計画にもとづき、目標達成状況を評価した。

8.1 利用者数

令和2年度（目標 58.0 人/日）及び令和3年度（目標 63.0 人/日）の利用者数は、それぞれ 52.6 人/日、48.8 人/日とどちらも目標を下回った。沖縄県では、令和2年4月16日～5月14日に国の緊急事態宣言、8月1日～9月5日に県独自の緊急事態宣言、令和3年1月20日～2月28日に県独自の緊急事態宣言、4月12日～5月22日がまん延防止等重点措置、5月23日～9月30日が国の緊急事態宣言と長期間にわたり、新型コロナウイルス感染症が流行しており、その結果、利用者数が目標を大きく下回る結果となった。

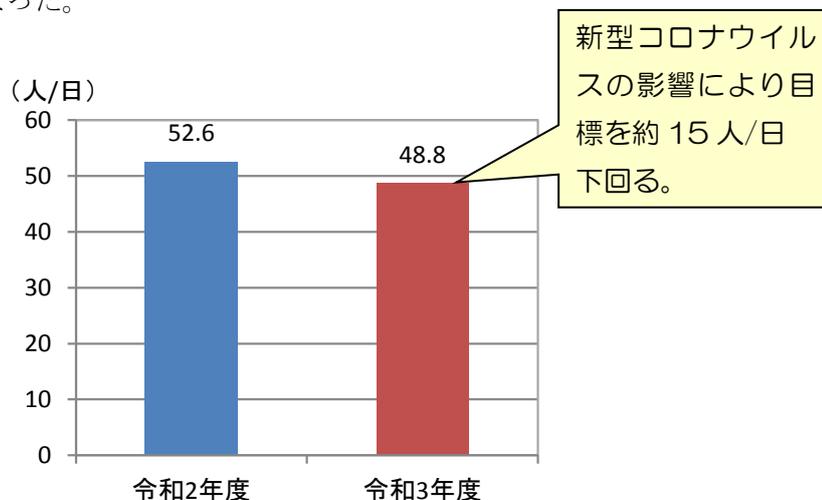


図-4. 「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移

8.2 1 便当たりの利用者数

令和2年度（目標 1.9 人/便）は 2.0 人/と便目標を 0.1 人/便上回る利用があったものの、令和3年度（目標 2.2 人/便）は 1.9 人/便と目標を 0.3 人/便下回る結果となった。

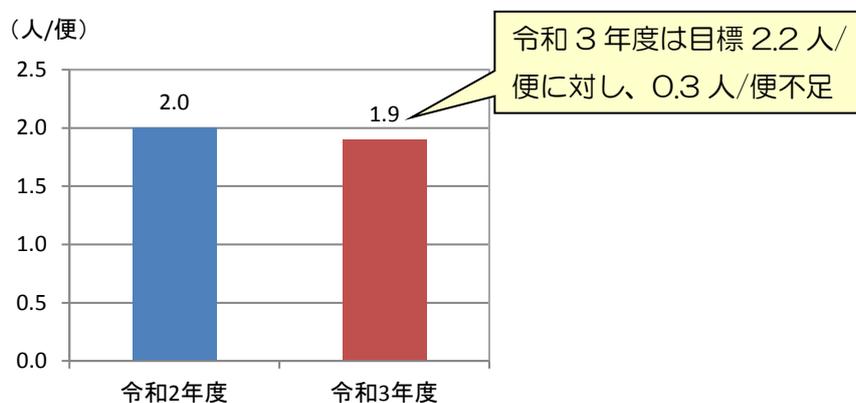


図-5. 「おでかけなんじい」の1便当たりの利用者数

8.3 市民(成人)一人当たりに換算した負担額

令和2年度（目標 40 円/月）の市民（成人）一人当たりに換算した負担額は、51 円/月と目標を 11 円/月上回ったものの、令和3年度（目標 46 円/月）は 45 円/月と目標を達成できた。

表 9. 「おでかけなんじい」の市民一人当たりに換算した負担額

年度	支出	収入	負担額	成人人口 (各年3月)	成人一人当たり の負担額
令和2年度	26,030 千円	4,866 千円	21,164 千円	34,361 人	51 円/月
令和3年度	23,498 千円	4,449 千円	19,049 千円	34,917 人	45 円/月

※成人人口は住民基本台帳より

8.4 目標達成状況のまとめ

登録者数は、平成 30 年度、令和元年度ともに達成できたが、その他の項目では、平成 30 年度及び令和元年度でわずかであるが目標に達しなかった。運用面での予約受付方法の改善により、利用者数がやや減ったことが原因と考えられるが、デマンドの運行については、計画通り事業は適切に実施された。今後は、現況値を踏まえ、目標の見直しを検討する。

表 10. 令和 2 年度の目標達成状況のまとめ

項目	現況値(R1)	R2 目標値	R2 実績値	達成状況
利用者数	82.8 人/日	58.0 人/日	52.6 人/日	×
1 便当たりの利用者数	2.7 人/便	1.9 人/便	2.0 人/便	○
市民(成人)一人当たり に換算した負担額	44 円/月	40 円/月	51 円/月	×

表 11 . 令和 3 年度の目標達成状況のまとめ

項目	現況値(R2)	R3 目標値	R3 実績値	達成状況
利用者数	63.0 人/日	63.0 人/日	48.6 人/日	×
1 便当たりの利用者数	2.2 人/便	2.2 人/便	1.9 人/便	×
市民(成人)一人当たり に換算した負担額	46 円/月	46 円/月	45 円/月	○

9 今後の改善点

本市では令和元年 9 月 10 日付で認定を受けた「南城市地域公共交通再編実施計画」にもとづき、令和元年 10 月 1 日より交通再編を実施し、市内の主な移動手段として N バス(市内バス)を導入した。

新型コロナウイルスの影響で、「おでかけなんじい」の利用者数は減少しているものの、コロナ禍においても N バスと合わせた利用者数はコロナ禍前を上回っており、今後も引き続き「おでかけなんじい」は N バスが通らない交通空白地帯や交通弱者（高齢者等）の移動を担うとともに、アフタコロナにおいては、増減の基準にもとづき改善を継続していく。



図-6. 「おでかけなんじい」の車両